
放浪者

風船

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放浪者

【Nコード】

N1483Q

【作者名】

風船

【あらすじ】

ロジャーが海賊王と呼ばれるよりも前の時代から、どこにも属さず気ままに世界を放浪する主人公の物語。

prologue

ローグタウン処刑台前広場

強い雨が降り注ぐ人混みの中、黒い外套に身を包んだ人物が処刑台を見上げている。

たった今、海賊王と呼ばれた男が処刑され、広場は男の放った言葉のせいで喧騒に包まれていた。

そんな中、外套の人物は口元に笑みを浮かべて小さく呟いた。

「まったく、お前は最期までガキだな、ロジャー……。」

呆れを滲ませた声と笑みを浮かべ、踵を返して歩き出す。

広場の喧騒など気にもとめずに進んでいくその前に、一人の男が立ちふさがった。

「……………何か用か？」

外套の人物の前に立つのは燃えるような赤い髪に麦わら帽子を被った男。

後の四皇 赤髪のシャンクス

「俺と一緒にきてくれよ。」

「本気でも寝言でも戯れ言でもお断りだね、ガキンちよ。」

即答。

正にその言葉が相応しい速度で拒否すると再び歩き出し、男の横を通りすぎようとすする。

「待ってくれよ、グレンさん。」

「ロジャーの誘いもニューゲートの誘いも断った。そんな人間が、お前みたいながきの誘いなんかに乗る訳ないだろう…。」

3

分かったなら、さっさと失せな。
そう言うかの如く、言い放つグレン。

だが、その程度でめげずに外套に隠れている手首を掴み、引き留めるシャンクス。

「待ってくれ！俺は…っ!?!?」

先程よりも強い制止の後、言葉を紡ぐことなく、掴んでいた手首も離し、素早く後退する。

首もとをグレンの手が横切った。

「……さすがにこの程度は避けられるようになったか。」

さして驚いた様子もなく、歩き出す。

「散々言っただろう。何処にも属さない、と。」

シャンクスには目もくれず言い放つグレン。

「諦めないからな!!」

意地を張る子どものように言い放つ、シャンクスに振り替えることなくグレンは広場から離れ、ローグタウンをあとにした。

Prologue (後書き)

誤字脱字などは、気軽に「ご報告下さい」。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1483q/>

放浪者

2011年1月16日05時36分発行